

コレクション展

没後50年 小林和作展

会期 2024年 6月25日(火) - 9月1日(日)
休館日:月曜日(ただし、7月15日、8月5日、12日は開館。)

山口県秋穂(現・山口市)に生まれた小林和作(1888-1974)は、1913年に京都市立絵画専門学校(現・京都市立芸術大学)を卒業し、日本画家としてスタートを切りましたが、30歳を過ぎて洋画家・鹿子木孟郎の画塾に入門し、洋画を学び始めます。その後、上京して梅原龍三郎や中川一政らの指導を受けるようになり、1927年には春陽会会員に推挙されました。しかし1934年に同会を離れ独立美術協会の会員となり、住居も尾道市に移して、後半生の創作活動の拠点としました。

小林の油彩画は、日本各地への写生旅行の際に制作された数多くの水彩スケッチのなかから気に入った構図を見つけ出し、アトリエで一気呵成に描いたものです。その豊かな色彩と独特なタッチの風景画は、大いに人気を博しました。本展では、山と海の風景画とともに、日本各地で制作された水彩スケッチを紹介して、没後50年を迎える小林の画業を振り返ります。

令和6年度 県立美術館メンバーズクラブ 4月12日(金)より会員募集!!

山口県立美術館と山口県立萩美術館・浦上記念館では、両館で開催する展覧会等をとおして美術に広く親しんでいたが、地域文化の向上に寄与することを目的として、2館共通のメンバーズクラブ会員の募集受付をスタートいたします。11年目となる本年も、皆さまのご入会をお待ちしております。

\*会員特典・入会方法などの詳細については、当館HPまたは会員募集チラシをご覧ください。
\*入会当日よりご利用いただけます。

【入会受付期間】
令和6年4月1日(月)~7月31日(水)
※ただし、山口県立美術館でのお申込みは、4月12日(金)より受付いたします。

【有効期限】
令和6年4月1日(月)~令和7年3月31日(月)まで



《春の海》1974年 山口県立美術館蔵



《秋晴》1957年 山口県立美術館蔵

Yamaguchi Prefectural Art Museum

2024 - 2025

schedule 山口県立美術館 令和6年度展覧会スケジュール

Calendar table showing exhibition dates from April to March, including collection exhibitions and special exhibitions.

Information section containing opening hours, admission fees, and a map of the museum location.

山口県立美術館ニュース「天花」第141号 令和6年3月発行 編集 指定管理者サントウバーブナシテイナービスグループ 発行 山口県立美術館 印刷 麗報社写真印刷株式会社

Yamaguchi Prefectural Art Museum

141

Contents コレクション展 特別展 奈良大和路のみほとけ 没後50年 香月泰男のシベリア・シリーズ



兼重暗香 《早春》 昭和16年(1941年) 絹本着色 山口県立美術館蔵

山口県立美術館ニュース「天花」

天花 TENGE

Collection

コレクション展

麗らかに、凜として 2024年4月12日(金) - 5月19日(日)

※本企画は2020年4月7日 - 5月10日に開催予定でしたが、コロナウイルス対策による臨時休館のため中止となりました。同企画をこのたび一部内容変更して開催いたします。

表紙作品解説

兼重 暗香《早春》 昭和16年(1941年) 絹本着色、掛幅装 167.2x142.8cm 山口県立美術館蔵

上下に枝を伸ばす白梅の古木。苔むし、折れた跡が長い年月を語る一方、緑を帯びた新しい枝も芽吹いてきています。中央上部にとまるのは、黒い帽子をかぶったような姿が愛らしい二羽のオナガ。丹念に描かれた羽の背から尾にかけての明るい空白と、梅に寄り添うような椿の薄紅色が、画面に華やぎを加えています。梅樹全体はどれくらい大ききで、鳥たちは何を見つめているのでしょうか。画面外への豊かな空間の広がり、漂う清々しさをいっそう高めてくれるようです。

本作は山口市出身の女性画家、兼重暗香(1872-1946)が70歳で描いた大幅。日本美術協会展の入選作品として記録があり、のちに宇部市内にあった旅館の調度品として愛されてきた逸品です。

この作品を描いた晩年、暗香は幹事を務める日本美術協会での活動と並行しながら、令嬢や海外の夫人らを中心に、自宅で絵画の指導にあたっていました。画壇で活躍するために留まらない、教養や品格のいしづえとして身につけるべき日本画。彼女が見つめたこれからの時代を生きる女性の「あるべき姿」を、この麗らかに、凜として、それでいてやわらかな空気を放つ花鳥画が語ってくれているように思うのは、想像が過ぎるでしょうか。

(山口県立美術館 学芸課主任 岡本麻美)

# 没後50年 香月泰男のシベリア・シリーズ



《埋葬》1948年 油彩／カンヴァス 山口県立美術館蔵



《黒い太陽》1961年 油彩・方解末・木炭／カンヴァス 山口県立美術館蔵



《復員(タラップ)》1967年 油彩・方解末・木炭／カンヴァス 山口県立美術館蔵

**会期** 2024年 7月4日(水) - 8月25日(日)  
開館時間：9:00～17:00(入場は16:30まで)  
休館日：月曜日(ただし、7月15日、8月5日 **ファーストマンデー**、8月12日は開館)

**観覧料** 一般 1,200円(1,000円)円、シニア・学生 1,000円(800)円

**主催** 山口県立美術館、毎日新聞社、tysテレビ山口

長門市三隅に生まれ、太平洋戦争を挟む激動の時代を生きた画家、香月泰男(1911-74)。新進気鋭の画家として頭角を現し始めた矢先に届いた召集令状は、香月の行く末を大きく変えました。太平洋戦争への従軍、そして戦後のシベリア抑留。終戦から2年後に復員して間もなく、香月は自らの体験を描こうとします。しかし、ありのままの「シベリア」を描くには、その記憶は未だ生々しすぎたのでしょうか。ほどなく、戦争と抑留の主題は香月の創作活動から消えていきました。復員から10年が過ぎようとしていた1950年代後半、香月は再び「シベリア」を描き始めます。記憶のある程度まで相対化するに足る時間が経過してもなお、その鮮明さは薄れてはいませんでした。同じころに確立した、黒と黄土色を基調とする独特の画風によって、過酷な体験は一つまた一つと絵画化されていきます。やがて今日「シベリア・シリーズ」と呼ばれるそれらの作品群によって、香月は画壇に確かな地歩を占めました。自らを押し流した過酷な運命と向き合い、その意味を問い続けた香月泰男。本展は、画家の没後50年を記念して、代表作の「シベリア・シリーズ」全57点を一堂に展示します。5年振りとなる同シリーズ全点公開に加えて、準備素描などの資料も併せてご覧いただき、香月が体験した戦争と抑留、そして創作活動の軌跡をたどります。

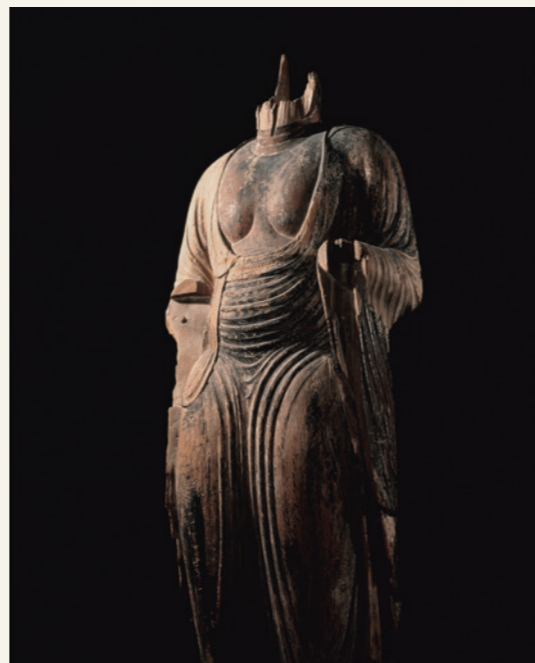


《雪山》1972年 油彩・方解末・木炭／カンヴァス 山口県立美術館蔵



《北へ西へ》1959年 油彩・方解末・木炭／カンヴァス 山口県立美術館蔵

## 芸術家たちをも魅了したトルソー



重要文化財 如来形立像【トルソー】(部分) 平安時代 唐招提寺蔵 提供：入江泰吉記念奈良市写真美術館

穏やかな自然に生まれ、悠久の歴史と物語を秘めた「奈良大和路」。はるか1400年の昔から数多くの寺院が建立されたこの地には、静かな慈愛に満ちた「みほとけ」が伝えられています。斑鳩、西ノ京、春日、長谷、飛鳥、當麻など、一度は歩いてみたい古道がここかしこにあり、ほのぼのとした風情を漂わせる景色と古寺を抱く奈良大和路は、會津八一、和辻哲郎、亀井勝一郎など日本を代表する文士たちが憧れ、巡礼するように訪れた土地でもあり、今なお私たちに惹きつけてやみません。本展では、法隆寺、東大寺、薬師寺、唐招提寺、大安寺、西大寺をはじめとする奈良の古寺に1000年の時を経て守り伝えられてきた、日本の彫刻史を彩る仏像を中心に、絵画や工芸品を紹介し、さらに奈良を愛した写真家・入江泰吉による、古寺の仏像や四季を彩る風景写真もあわせて展示し、文士たちの言葉が誘う、風土と混然一体となった大和路のみほとけの世界へご案内します。

※本展覧会の内容や各作品の展示期間、イベント等に関する最新情報は、当館ウェブサイトにて随時、告知します。

## 令和古寺巡礼

斑鳩・矢田  
法隆寺 靈山寺  
西ノ京・佐保・佐紀  
薬師寺 唐招提寺  
大安寺 西大寺 法華寺

奈良公園周辺・春日・柳生  
東大寺 興福寺 新薬師寺  
法徳寺 南明寺

山の辺・飛鳥・當麻  
長谷寺 岡寺 當麻寺



重要文化財 弥勒菩薩坐像 平安時代 薬師寺蔵 提供：奈良国立博物館



重要文化財 持国天立像(興福寺伝来)(部分) 平安時代 MIHO MUSEUM蔵 撮影：山崎兼慈

やまとはかのかのいかるがのおほてらに  
みほとけたちのまちていまさむ

會津八一より  
観仏三昧

# 奈良大和路のみほとけ

## 令和古寺巡礼



国宝 観音菩薩立像【夢違観音】(部分) 飛鳥～奈良時代 法隆寺蔵 提供：入江泰吉記念奈良市写真美術館

悪夢を吉夢に変えてくれるほとけさま  
国宝・夢違観音

この像に祈ると「悪夢が吉夢に変わる」という伝承から[夢違観音]の愛称で知られ、長い間人々の信仰を集めてきました。童子のような可憐さとみずみずしさをおわせもつ、白鳳時代(7世紀後半～8世紀初頭)の仏像のシンボリックな存在です。

**2024年 4月12日(金) - 6月9日(日)**

**会期** 開館時間：9:00～17:00(入場は16:30まで)  
休館日：月曜日(ただし、4月29日、5月6日、6月3日、**ファーストマンデー**は開館)

**観覧料** 一般 1,700(1,500)円、シニア・学生 1,500(1,300)円  
◎本展ご観覧の方は当日に限り、コレクション展を100円でご覧いただけます。  
※シニアは70歳以上の方、( )内は前売り、オンラインチケットおよび20名以上の団体料金。  
※高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在籍の方等は無料。  
※障害者手帳等をご持参の方とその介護の方1名は無料。  
※前売り券は、ローソンまたはミニストップ店内のLoppi(Lコード：63259)、セブンチケットでお求めください。オンラインチケットの購入については、当館ウェブサイトをご覧ください。

**18歳以下無料**

**主催** 山口県立美術館、読売新聞社、KRY山口放送  
**協力** なら歴史芸術文化村、入江泰吉記念奈良市写真美術館  
**後援** 奈良県、FBS福岡放送、HTV広島テレビ

**企画協力** TNCプロジェクト  
**特別協賛** 山口銀行